



【編集】  
富山国際大学  
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

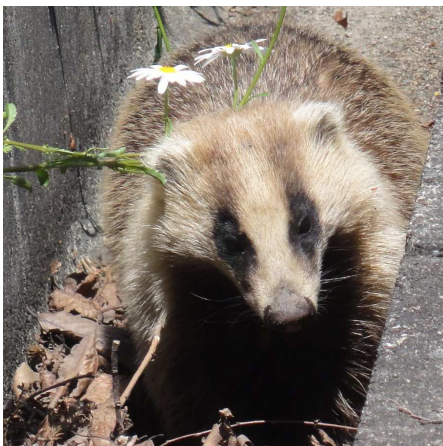
Toyama University of International Studies

## エゴノキの花盛り

先日森林づくり活動で整備したグランドの東側では、今エゴノキが白い花を咲かせています。Restラ～ン前のエゴノキも例年になく沢山の白い花を付けており、気に掛けている方も多いかと思います。グランド東側では何本ものエゴノキがあり、見事な花園となっています。そろそろ終盤となりますが、花見の散歩を試みませんか。

この季節は、同時に、小木のガマズミやサワフタギが白い花を付けており、普段は、目立たない木なのですが、梅雨入り直前の初夏の風物詩となっています。

実は、グランド東側は、約 25 年前(1989 年)に縄文遺跡の発掘をした場所です。その後、日当たりのいい所はススキが繁茂し続けています。しかし以前からの雑木林に接した周辺部では、次第にいろいろな木が成長してきました。現在、最も大きくなっている木は、カラスザンショウやアカメガシワです。これらは先駆性陽樹といわれ、新たな空き地でいち早く成長する木ですが、寿命が比較的短いものです。そして、その木の下でエゴノキなどが次第に成長しています。次いで、背の高いウワミズザクラなどが育ってくると、エゴノキも次第に席を譲



ることになります。

さらに、何時の日かコナラなどの高木が伸びる機会を得て、優勢な樹種となっていきます。このような林が広がっていれば、超長期的には、ハンノキなどの陰樹に切り替わっていき極相となることもあり得るのですが、近辺の里山では、ほとんど見られない樹相です。

ところで、最近この辺りでタヌキがよく顔を出すようになりました。森林づくり活動でタヌキのねぐらを破壊したのではないかと心配しています。